

令和6年度自己評価表(中間評価)

中長期目標	多様な価値観を尊重し、主体的に生きる力を育み、持続可能な社会を創造する人財の育成を図る。	今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 主体的に進路を選択する力、そのために必要な学力の育成 2 課題を発見する力や課題解決に向かう力の育成 3 自分の価値を認めるとともにチームで課題にチャレンジする力の育成 4 働き方改革の推進
--------------	--	-----------------	--

年 度 当 初					評 価 結 果 (10)月		
評価項目	評価の具体項目	現状(令和5年度)	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 主体的に進路を選択する力、そのために必要な学力の育成	進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学現役合格者数：78名 ・難関私立大学現役合格者数：30名 ・大学入学共通テスト出願率：72.1% ・1日あたりの平均学習時間(6月～9月調査)： 1年次 88分 2年次 96分 3年次 229分 	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学現役合格者数：60名以上 ・難関私立大学現役合格者数：20名以上 ・大学入学共通テスト出願率：80% 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合型選抜及び学校推薦型選抜対策を学校全体の取組として行い、生徒が積極的にチャレンジできる環境をつくる。 ・大学入学共通テストの教科・科目の再編に対応し、生徒に対して適切な指導方針を示し、多くの生徒に受験を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学総合型選抜及び学校推薦型選抜出願者数：66名(昨年度41名) ・大学入学共通テスト出願者数：217名 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・総合型選抜及び学校推薦型選抜受験者に個別指導を行っているところ。近年、受験者が増加しており、組織的な指導体制作りが必要。
	学習習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・平日1日あたり学年プラス1時間の学習時間 	<ul style="list-style-type: none"> ・Chromebook等を活用した、生徒が主体的に取り組むことができる学習スタイルを確立する。 ・学級担任及び教科担任が生徒との対話を通して、学習に対する意識付けを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1日あたりの平均学習時間(10月実施)： 1年次：57分 2年次：74分 3年次：162分 	<ul style="list-style-type: none"> ・Chromebookの活用方法について、授業見学等を通じて、教科を超えて教員間での共有を深めていく。 		
2 課題を発見する力や課題解決に向かう力の育成	みらいチャレンジ活動の充実・発展	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒がフィールドワーク、大学訪問、米子市のイベント等に参加し、地域に目を向け意見交換等を行う機会を獲得 ・みらいチャレンジ活動アンケートにおける学習前と学習後の自己評価の肯定的変化：72.1% 	<ul style="list-style-type: none"> ・みらいチャレンジ活動アンケートにおける学習前と学習後の自己評価の肯定的変化：80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・米子市との連携をさらに深め、探究的な要素を深めた質の高い活動とする。 ・地域貢献活動に係る情報を生徒に周知し、多くの生徒の参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所等訪問数：のべ49カ所 島根大学研究室訪問者数：24名 中間発表指導助言来校者数：24名 YONAGOまちなかハイスクールエントリー数：33名 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスの手法を取り入れ、探究的な側面を深めていく。
	学校の魅力・特色の情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページでのトピックス更新回数(令和5年度)：153回 ・オーストラリア語学研修に5名の生徒が参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを迅速かつ頻繁に更新することによる情報発信力の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年同様、頻繁な更新に努めるが、特に部活動の活動状況や大会結果報告等の発信を各部で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページでのトピック更新回数：79回(9月末現在) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き生徒の活動の姿を発信し、学校の魅力作りに繋げる。
	国際交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で働く社会人や留学生等との交流機会を設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流活動を体験する生徒の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部人材を積極的に活用し、国際交流の機会を増やす。 ・オーストラリア語学研修を継続し、希望する生徒が参加できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒13名が公立鳥取環境大学「出張英語村」に参加、生徒2名が県主催の海外研修に参加 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度へ向けて、海外研修プログラムを計画する。

令和6年度 自己評価表 (中間評価)

中長期目標	多様な価値観を尊重し、主体的に生きる力を育み、持続可能な社会を創造する人財の育成を図る。	今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 主体的に進路を選択する力、そのために必要な学力の育成 2 課題を発見する力や課題解決に向かう力の育成 3 自分の価値を認めるとともにチームで課題にチャレンジする力の育成 4 働き方改革の推進
--------------	--	-----------------	--

年 度 当 初				評 価 結 果 (10)月			
評価項目	評価の具体項目	現状(令和5年度)	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
3 自分の価値を認めるとともにチームで課題にチャレンジする力の育成	基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒学校評価アンケート「自己肯定感の高まりを感じる」：75.7% ・年間遅刻回数1回以下の生徒の割合：96.7% ・いじめの早期発見に努めた。 ・運動部全国・中国大会以上出場：31競技 ・文化部全国大会出場：6部門 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒学校評価アンケート「自己肯定感の高まりを感じる」：80%以上 ・年間遅刻回数1回以下の生徒の割合：90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの早期発見に努め、職員間で情報共有し、迅速に対応する。 ・本校が定める「生徒指導に係る諸問題の未然防止及び対応指針」に基づき、生徒が自己存在感を感受できる生徒指導・支援を行う。 ・翠風祭等の学校行事や生徒会活動をより生徒主体に変えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「米西における生徒指導の重層的支援構造」を示し、生徒理解に基づく指導の徹底を実践しているところ ・翠風祭をはじめ学校説明会(体験入学)、制服検討委員会等への多くの生徒の自発的な参加を実現 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートを12月に実施する。 ・分掌・学年間で連携し、生徒情報の共有をさらに進める。
	部活動の奨励	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が上位大会出場を目指しながら、学業との両立を図りバランス良く活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に適切な活動日及び活動時間を設定し、顧問・生徒ともにメリハリをつけた活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月毎の部活動指導計画に基づいた、計画的な運営を実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動指導員等を活用して、専門性を高めると同時に効率の良い指導を行う。 	
4 働き方改革の推進	時間外業務の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外業務の削減は達成できていない状況だが、業務改善について衛生委員会等で検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人あたりの時間外業務時間の削減：月45時間以内、年間360時間以内を達成 ・ストレスチェックにおいて、各項目のストレス値の低下 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職はもとより、全職員が同僚性を発揮して、学校全体で業務の工夫・改善に対する意識改革を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人あたりの時間外業務時間(9月末現在)：月45時間以上：5名、月30時間以上：12名 ・ストレスチェックにおける昨年度から数値が改善された項目：19項目のうち2項目 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善アンケートの結果を踏まえ、時間外業務の削減と併せて職場環境の改善を進めていく。

評価基準 A: 十分達成 [100%] B: 概ね達成 [80%程度] C: 変化の兆し [60%程度] D: まだ不十分 [40%程度] E: 目標・方策の見直し [30%以下]